



オリーブ通信

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>



2015年
8月号
2015.8.8発行
第166号

オリーブ先生たちによるリレーエッセイ② 杉山美予

MY HOBBY

私は今、ビーズアクセサリー作りにハマっています。まだ、始めて2年なので、難しいデザインのものではありませんが、ネックレスやブレスレットなど、自分でできる範囲の簡単なデザインを考えて作っています。

ビーズアクセサリー作りのいいなと思うところは、3つあります。

- ①オリジナル作品を安く作れること。(パーツの値段が安いので、完成品も普通のアクセサリーより、とても安く仕上がります。)
- ②手と頭を使うこと。(パーツの組み合わせを考えたり、完成デザインを創造したりすることが楽しいです。同時に指先も動かすので、脳には良いかも?)
- ③プレゼントすると、喜んでもらえること。(私は、普段あまりアクセサリーをつけないので、できたものは、ほとんど親戚や友人、知人にあげてしまいます。喜んでもらえる、嬉しくてまた作りたくなります。)

ビーズパーツ売り場では、ストーンやメタルっぽいものもあり、じっくりパーツを選ぶ男性の方もおられます。

興味のある方や、作ってみたい、または作ってほしいという方がおられましたら、男性、女性問わず気軽にお声かけください。

目下の悩みは、老眼のため、ビーズの穴にワイヤーが通りにくくなってきたことです。はあ～。



中川先生のへんてこ日本語

61

おもろすぎ

「おもろすぎ」というような表現を、よく学生が使っているのを耳にする。「でかすぎ」「やばすぎ」などと、形容詞に「すぎる」が付くのだが、「おもろすぎだ」「やばすぎだ」などと、体言止めされることにオヤヤと思った。「この服は大きすぎる」や「この問題はむずかしすぎる」のような、形容詞+「すぎる」なら、なんと異様ではない。とにかく想定範囲を超えているのが「すぎる」という動詞の意味である。

動詞+「すぎる」なら、複合動詞として、「食べすぎ」「飲みすぎ」「働きすぎ」など、体言止めの例はいくらでも見つかるが、「おもろすぎ」「やばすぎ」は、「過剰般化」だろうか。いやいや「食べすぎの場合」はできても「おもろすぎの本」はできないので、若者言葉または誤用と考えたほうがよからう。「とてもおもろい」「非常にやばい」というような、副詞的接尾辞と考えられる。もはや想定範囲を超えた「動詞本来の意味は薄れているようだ。」

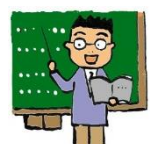
「でかっ!」「やばっ!」などと、開口一番に感想を述べる現象が観察されることは以前にも書いたが、副詞を用いて程度を表すことを忘れてしまった一例となろう。語彙で程度を表すのではなく、イントネーションやプロミネンスによって「おもろい」「やばい」程度を表そうとしているようだ。

日本人学生が、テストの感想を「先生、むずすぎや」ともらした。一方で留学生は、「先生、めっちゃむずかしいです」と述べた。さあ、どちらのほうに難しさが込められていると思いますか。



プロミネンスリ音や音節がまわりより際立って聞こえること

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄



私の故郷 ハノイ(ベトナム) …… ファム ヴァン クィ



ハノイはベトナムの首都で政治の中心です。内外の旅行客を引きつけている場所です。建物が古風な趣のあるまちです。例えばヴァンミエウクオクツジャムという場所はベトナムで初めての大学です。昔のたくさんの博士の名前を刻んだ博士碑を置いています。大切な試験を受ける時は大学生たちが博士碑の中で一番偉い人の碑の前に祈りに来ています。

近代の建築で有名なラングバ(Lang Bac)はホチミン指導者の死体が保管されています。ベトナム共産党を創立した方です。

現代の建築としては国家の運動場があります。2003年のseagame(東南アジア 11 か国の運動会)が行われた場所です。

旅行客や若者がよく来ている場所としてホーホアンキェムはハノイの中心にあり、文化活動などよく行われています。ノイバイ空港は北部で一番大きいです。国際線もあるので海外からハノイに来る人に便利です。



ハノイは伝統的な食事があり、有名で美味しい料理がたくさんあります。その中で一番人気がある料理はフォーです。ハノイの特徴のある料理です。ベトナム人はフォーと言うとハノイをイメージします。ハノイに来る旅行客はチャカラヴォンと言う魚料理を探して食べます。ブンダウマムトムと言う料理は豆腐や米の麺を特別な醤油に付けて食べます。他にブァンクオンタンツィやコムランヴォンなども愛好されています。コムランヴォンは青い若い米に調味料を加えて加熱した料理です



交通はバイクが多いです。ラッシュの時はこんなふうに渋滞になります。交通事故も多いです。

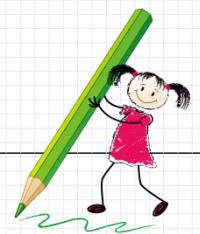


四季ははっきり分かれています。夏は 39℃になる時もあります。とても蒸し暑いです。今年は 40℃以上の日もありそうです。冬は、雪は降りませんがずいぶん寒いです。4~5℃まで下がる時もあります。春と秋はすごしやすいと思います。みなさん良かったら是非きてください！

※夏と冬は天気が厳しいので服や飲み物などを準備することが必要です。道がすごく複雑なので、迷わないように地図も必要です。

先生も勉強中

この夏はKIFAとBNNの日本語指導の講座が立て続けに開催されて、先生たちは大忙しです。参加されたおふたりにレポートを書いてもらいました。



日本語教育支援者のためのレベルアップ研修会

7月19日(日)から、日本語教育支援者のためのレベルアップ研修会が始まりました。講師はオリーブ通信にもコラムを書いてくださっている京都外国語大学教授の中川良雄先生です。大学教授と聞くとお堅いイメージを持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、中川先生はジョークやダジャレがお好きなようで、学びあり・笑いありの楽しい講座にしてくださいました。研修会は8月も続きますが、7月の数回の講座での活動や心に残ったことをレポートしたいと思います。

～前半～

全体研修と、曜日別に分かれた初回の講座はレジュメをもとに中川先生のお話を聞いたり、授業で使えるようなペアワークをやったりしました。

○日本語ができるとは…？

日本語ができる＝コミュニケーションがとれる(自分の言いたいことが伝えられる)ということだそうです。確かに、日本語能力試験でN1やN2に合格していてもほとんどコミュニケーションがとれない人もいますし、日本人でもTOEIC900点以上持っているからといって英語が話せるわけではありません。わたしたち先生は日本語教育をしていくにあたって、実生活で使える・話せる日本語を教えなければならないのですね。

○教師主体から生徒主体へ

コミュニケーションをとれるようにするには、授業内で生徒にたくさん発話させ、生徒主体の授業に変えていくことが重要で、授業内の発話の割合は先生：生徒＝4：6が理想だそうです。わたしは中高の英語の授業でよく教科書の丸暗記をしました。しかしそれによってコミュニケーションがとれるようになったかというところではありませんでした。やはり自分の意見を言う練習をしないと身につかないのですね。

○learn by doing

learn by doing＝(言語は)使うことによって学ばれる
授業の前半に単語や文法などのインプットを与えて、それを使って生徒にアウトプットさせる。学習した言葉を使って実際に自分の意見を言ったりしないと言語は定着しないそうです。

～後半～

後半はグループに分かれて教案を作成し、発表に向けて準備しました。指導案を書くときは先生が教えることだけでなく、ある程度生徒さんの反応を予想して書き込むことがポイントだと教えていただきました。それによって質問が出そうなどころが見えてくるので、授業中に質問されてもスムーズに答えられます。普段オリーブで指導する際にきっちりと教案を書くことはなかなかないかもしれませんが、あらかじめ質問の予想はしておくように心がけようと思いました。

数回の研修ですが、これからの日本語教育活動に役立つ知識を教えていただけました。教案の作成や発表などの実践練習ができてよかったです。語学学習だけでなく、何事も人の言うことを受動的に聞いているだけでは身につかないのだと実感しました。

レポート：小林真由子



BNN 日本語指導者養成講座に参加しました

7月20日、東近江市・能登川コミュニティセンターで開催された日本語指導者養成講座に参加しました。

午前中は、外国人がまちがいがしやすい発音、日本語のアクセントやイントネーションの特徴など、音声中心の講義を受けました。地図とチーズのような最小対語(ミニマルペア)やディクテーションによる発音練習を体験しました。

午後の講義テーマは外国人からよく聞かれる質問でした。初級から上級までの学習者に共通の質問は類似表現の違いに関するものが多いことから、助詞「に」と「へ」の違いなどを掘り下げて考えました。ふだんから、類似表現を意識しておくことが大切だと改めて感じました。

当日は、滋賀県の長浜市や野洲市などから、さまざまな団体に所属されている方々が参加されていましたが、ペアワークなどを通してアットホームな雰囲気勉強することができました。この講座は9月6日と13日にも行われます。ご興味ある方はぜひご参加ください。

レポート：伊藤紀子



先月の活動(7月)



今月の活動予定(8月)



日本語教室	7/4 (M),11,18,25(4回)
「生活者としての外国人」のための日本語教育事業	
①ネットワーク会議	7/9(木) (恩地)
②運営委員会	7/27(月) (恩地)
KIFA 広報部会	7/6(月) (恩地)
まちセン運営協議会	
①施設部会主催「夏の星座学習会」	7/4(土) (田中一)
②施設部会	7/9(月) (田中一)
BNN 講座打合せ	7/20(月・祝) (佐野)

日本語教室	8/1,8,28,29(4回)
「生活者としての外国人」のための日本語教育事業	
ネットワーク会議	8/3(月) (恩地)
まちセン運営協議会全体会	8/11(木)(田中一)
KIFA 広報部会	8/18(火) (恩地)



●日本語教室の(M)は定例ミーティング ●()内は参加者、または 参加予定者。敬称略



参加人数(7月)

	7/4	7/11	7/18	7/25
先生	20人	21人	16人	21人
生徒	18人	18人	19人	21人



会員の動き(7月)

- 〈入会〉 鈴木弘美さん 7月18日入会
- 〈休会〉 なし
- 〈退会〉 なし 〈賛助会員〉 なし



異文化交流が大好きな鈴木弘美と申します。楽しくお手伝いができればいいなと思います。よろしく願います。

中村さんの季節折々 8月(景月)

あの事を言いそびれたり初夏のさざ波立てる琵琶湖を見た日

※生徒のみなさん、猛暑日がつづいていますが、滋賀県の夏はいかがでしょうか。琵琶湖…まだ見たことがない人は、ぜひ一度は見てほしいですね。 中村健治



受付の目



「当たり前だけど…」

先日、生徒さんが備品のケースを倉庫に片づけるために、しばらく残って下っていました。最近、ケースを運んだり、ホワイトボードを元に戻したり…といった片づけをしてくれる生徒さんをよく目にします。以前は先生だけがやっていた。「先生に片づけさせるなんて」という気持ちをもたれているのでしょうか。「いいです、いいです、やります」「何を片づけましょうか?」と、「おんぶにだっこ」じゃない生徒の姿勢をととても嬉しく思います。(小春)

編集後記: 暑い日が続きますね。お体には十分お気をつけください。

8月末から SHIPS で外国人のための介護職員研修講座が始まりますが、専門研修の前に日本語の授業があり、小島先生とともにこの講師役を引き受けることになりました。介護のことはほとんどわからないので、どこかで実際の現場を見学したいと思っていたら、なんと社会福祉士で介護支援専門員の山崎先生が自身の職場「ケアポート栗東」にどうぞ~と言ってくれ、ご厚意に甘えて先日行ってまいりました。オリーブの人材の豊富さにまず感謝。この職場で働くなら相当レベルの日本語が必要です。本当にたいへんだと思いますが、覚悟をもって勉強したいという外国人たちがいます。教える側も頑張らねば(MO)

